



英語活動授業

教育 教育特区の 費用対効果は

小林友明
(新政策研究会)

問 群馬県太田市は外国語教育特区の認定を受け英語に特化した小中高一貫校(群馬国際アカデミー)を開校させたが、入学を契機に太田市へ転居する家族も少なくない。本市が誇る教育特区事業、少人数学級編制及び小学校英語活動も同様に、転入に繋げるような効果が期待される。事業は年間1億6000万円余りの拠出を伴い、教育費に占める割合は6・1%と高い比率となっている。費用対効果の視点でどのような成果が表れているのか。成果をもっと市外に発信すべきではないのか。

答 小学校1年生からの英語活動授業の効果は高く、中学校入学当初から聴き取りに優れ、円滑に授業が進められると聞いている。また、今年度、県が実施した中学2年生を対象の学習状況調査では英語科の表現力が特に高い評価を受け、効果的な指導事例として県内に紹介された。これらの成果を積極的にPRしていきたい。

防災 防災行政無線の 運用改善を

栗原二郎
(日本共産党)

問 防災情報は、いち早く正確に伝達する必要がある。防災行政無線の年間維持経費は。ソフト・ハードの改善は進んでいるのか。

答 防災行政無線は市内145箇所に設置され、年間の維持経費は保守点検やバッテリーの交換費用として約290万円を支出している。なお、行田市と旧南河原村の周波数を統合し、全国瞬時警報システムの接続を進めている。

問 熊谷気象台とも連携し、台風や雷、竜巻などの事前情報を防災無線で知らせられないか。

いか。

答 台風は放送しているが、竜巻、雷、ゲリラ豪雨などの気象情報は影響する地域の限定が難しく放送していない。

問 聞こえにくい場合、電話による音声応答サービスを実施しているが、これを無料のフリーダイヤルにする考えはないのか。

答 今後フリーダイヤル化に向けて検討したい。

学校施設 小中学校 エアコン設置 の必要性

高橋弘行
(しんりょく会)

問 人口減少が憂慮される昨今、若い世代が住宅を検討する際、周辺教育施設の問題整備がその条件に挙げられると思う。近隣市でも取り組んでいる学校へのエアコン設置を推進し、教育環境の向上に努めるべきと考えるがどうか。

答 なお、市内企業は景気の低迷により大変厳しい経営を余儀なくされている。学校へのエアコン設置を地元業者に発注し、地元経済の活性化に繋がられないか。
答 エアコン設置による教育

環境の整備は、若い人たちの定住を促進するひとつの方策であると思われる。しかし、現状の扇風機とミストシャワーの効果を検証するとも、本市の財政状況等を勘案したうえで総合的に判断する必要があると認識している。

学校施設 小中学校への エアコン導入を

梁瀬里司
(黎明21)

問 本市は全国で最も暑い地域である。小中学校において、熱中症などにより体調を崩す児童生徒はどのくらいに上るのか。また、小中学校の暑さ対策の実施状況は。

答 症状が重く、救急車を呼んだ事例は学校から報告されていない。また、暑さ対策については小中学校全教室への扇風機設置を平成22年度に完了し、本年度はミストシャワーを全校に設置した。また、緑のカーテンの設置による室

政策 市民負担の軽減 サービスの向上を

大久保忠
(日本共産党)

問 児童生徒が学習に集中できるよう、また健康面からも普通教室へのエアコン設置が必要と考えるがどうか。

答 今後、学習環境の整備を推進するなかで、小中学校へのエアコン設置については、財政状況を踏まえ、これまでの暑さ対策の取り組み等を検証しながら総合的に判断していきたい。

問 市民の暮らしは大変厳しいものとなっている。市の平成23年度決算は、14億2159万1000円の黒字であり22年度も約15億7000万円と予想を超えた黒字となっている。この間、財政調整基金に4億円積み立てをし、今年度取り崩した3億円の財政調整基金も補正予算で戻している。職員退職金の基金に1億円など黒字になった部分を積み立てている。